学べる
憩える
快適空間

図書館の魅力

『刀』

子どもから大人まで幅広くご利用いただける憩いの場「図書館」。その魅力についてお伝えしていきます。10月のテーマコーナーは「刀」です。武器としてだけではなく、美術品、文化的価値もある日本刀。その魅力が伝わる本をご紹介します。

『浮世絵に描かれた刀剣と勇士の世界』

（狩野博幸／監修　河出書房新社）

歴史に残る合戦や忠臣蔵の名場面など、幕末から明治にかけて活躍した浮世絵師が、刀剣と勇士の姿を描いた作品を紹介。歌川豊国、豊原国周が描いた歌舞伎の強請場、殺し場で、刀を持ち見得を切る役者の艶姿の名場面も収録。

『日本刀大全　決定版』

（原田道寛／著　河出書房新社）

斯界の第一人者が愛と執念で綴った、日本刀鑑定の世界。造刀術の発達、新古の比較、吉光の偽物、村正の伝説、目利き心得など、日本刀に関する重要な事柄と、著者ならではの貴重なエピソードを収録。

【紹介文は株式会社図書館流通センターの書誌詳細より引用】

刀由来の言葉

日本語には刀由来の言葉が数々あり、そのような言葉を通じて、日本刀を身近に感じてみましょう。

「鎬を削る」

刀身中央の一番厚みのある部分の鎬筋が削れ落ちるほどの激しく争う様子を表現

モータースポーツお宝探検隊　vol.6

そのしぶとい走りから「マムシの秀六」の異名をとり、ファンを沸かせた名レーシングドライバー佐々木秀六さん（74歳 鈴鹿ハイツ）。レースデビューは1968年のことでした。マシンは、昼夜のアルバイトを掛け持ちし、やっとの思いで手に入れたトヨタ・スポーツ800。しかし、速く走らせるためには、空気をスムーズに吸入し、気化した燃料を効率よく燃焼させる部品「エアファンネル」がどうしても必要でした。「誰よりも速く走りたい」「マシンの性能を最大限に引き出したい」そんな思いから、当時としては高価な3,000円のエアファンネルを購入するために、3日間水だけで過ごし、費用を捻出したそうです。

その後佐々木さんは、さまざまなクラスに活躍の場を移し、連戦連勝。1980年には全日本F3チャンピオンにまで昇りつめました。

佐々木さんのレース人生の「原点」となった思い出のエアファンネル。今でもあの頃の情熱を宿しながら、美しい輝きを放っています。

▲今も美しいエアファンネルと当時の写真

■中野能成（鈴鹿モータースポーツ友の会　事務局）

キーボード

「向こう三軒両隣」。古くから親しい近所付き合いや支え合いの気持ちを表す言葉としてよく使われますが、民生・児童委員はこうした支え合いの気持ちを制度化したものとして長い歴史を有します。

今回の特集の取材で「委員の皆さんの活動を例えると？」という質問をさせていただいたところ、専門機関へのつなぎ役という意味では「パイプ役」、地域の皆さんの相談や意見をお聴きするという意味では「スポンジ役」など、さまざまな例え言葉をいただきました。まさに一つの言葉では言い表せないほど、その活動内容は多岐にわたります。どれも決して目立つものではありませんが、皆さんに安心感を与え、地域のつながりを保つ大切な活動です。

例え言葉はさまざまでも、共通するのは「地域の皆さんのために」という思い。その思いが今日も皆さんの生活を陰で支えています。（正）